

Hospital report ③

医療法人水光会
宗像水光会総合病院
 (福岡県宗像郡福岡町)

急性期医療から在宅ケアまで
 総合的なサービスを提供



自然光と間接照明で暖やかな雰囲気をつくりだすエントランスホール

産科・婦人科患者が入院するレディース病棟(26床)のサロン



広いつくりの個室から高層の山々が見わたせる



人間が生きていくのに欠かせない水と光。この要素を法人の名に取り入れる同会は、自然のなかで生きている人間の治癒力を大切に、「病者は医療人だけが治すのではない」と、医療人のおこりを常に戒めている。山や田園に囲まれ自然の光が多く差し込む同院は、1965年の開設以来、一貫して地域の求めに応じたサービスを提供し続けている。

充実したアメニティーと IT化で癒しと効率性を追求

福岡町は、福岡市と北九州市からそれぞれ車で二〇分程度の中間点にあたる。この地に宗像水光会総合病院が開院した一九六五年は、両市を結ぶ道路が整備され大きな交通事故が目立ち始めていた。

「当地に不足する救急医療に取り組みたい」という思いがあり開院しました。当時の救急は交通事故を原因とするものが多く、外科中心の診療でした」と津留水城理事長は、二二床で開院した当初を振り返る。

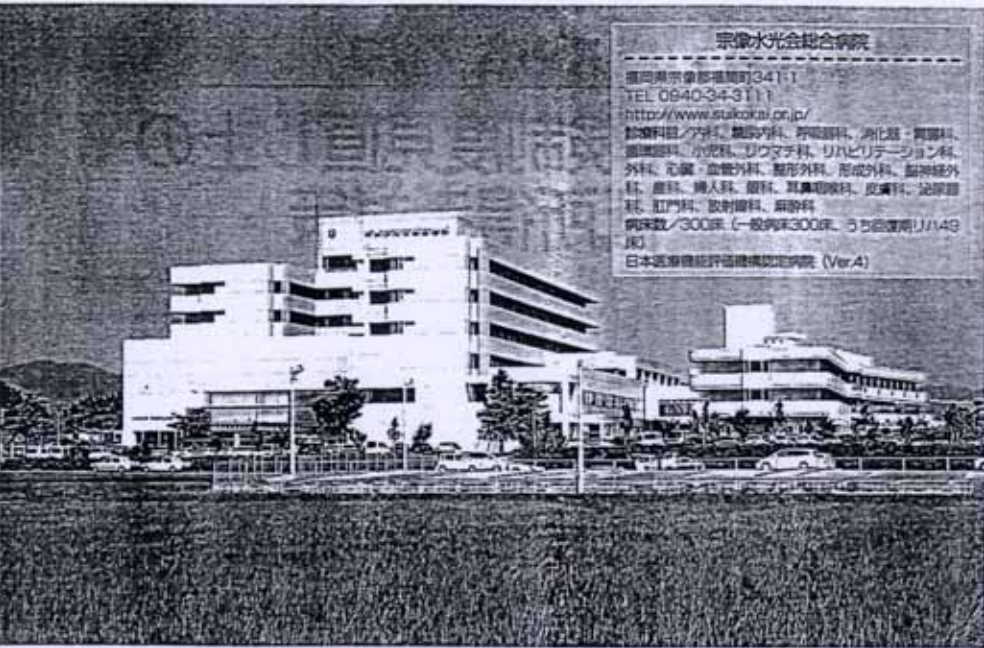
同地域は近年、両市に通う人たちの住宅地として発展。人口増加とともに脳卒中、心臓病など救急対応が必要な疾患の幅が広がり、それに合わせるように診療科目や病床数も増やしていった。3DCT、MRI、DSA(血管造影)、結石破砕装置、高気圧酸素装置などの機器を充実さ

せる一方、老人保健施設のほか、系列の社会福祉法人が運営するデイサービスセンターなど在宅サービスにも力を入れていく。昨年は回復期リハビリテーション病棟(四九床)も開設した。リハビリスタッフの増員を図ったうえで、管理栄養士なども含めたチーム医療を展開。急性期から在宅ケアまで、一貫してスムーズに移行できるように体制を整えている。

「患者さんとのコミュニケーションを大切にしながら医療・福祉サービスを行っていきたい」という同会は、院内の設備にも配慮している。九〇年に建築された現在の病院は、安心と穏やかさが感じられるように間接照明を取り入れ、エントランスホールには広々とした窓から自然光がたっぷりと差し込む。個室やサロンからは山々が見わたせ、四床室の前には利便性と早期リハビリを考慮した分散トイレを九州で初めて採用。廊下にはクッション性に優れたタイル



サロンの隅には患者さん専用がある。照明などで、リラックスしたい女性患者さんには好評



宗像水光会総合病院

福岡県宗像郡福岡町341-1
 TEL 0940-34-3111
 http://www.suikokai.or.jp/
 診療科目/内科、総合内科、呼吸器科、消化器・胃腸科、循環器科、小児科、リウマチ科、リハビリテーション科、外科、心臓・血管外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、産科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、肛門科、放射線科、麻酔科
 病床数/300床(一般病床300床、うち回復期リハ149床)
 日本医療機能評価機構認定病院(Ver.4)



在宅復帰支援のために、メディカルソーシャルワーカーが相談にあたるコーナー



各診療室のそばには中待合室を設けている



エントランスホールでは年3~4回、プロの演奏家を招いてコンサートを開催する

カーペットを敷き、入院時、静かに療養できるようにしている。また、院内LAN、オーディオシステムを導入し、院内の医療情報伝達の高速度・正確化にも努めている。

コンサートなどの開催で 地域連携を促進

水と光を表すシンボルマークは、理事長と親交の深いアートディレクター・河北秀也氏の作。円は太陽を表現、内部には水の波紋をデザインし、人間が自然と一体となって生きていることを強くアピールしている。

九七年からはエントランスホールで年に三・四回、地域に開放された「水と光のコンサート」を開催。クラシックやジャズの演奏家が、入院や外来患者のほか、一般住民の心を癒している。

「地域医療を担う急性期病院として心臓血管外科(A-Cバイパス、弁置換術)、脳神経外科、整形外科、消化器の外科手術などに力を入れると同時に、介護保険の進展に合わせて、介護サービスのさらなる充実も図っていきたい」と津留理事長。ケアマネジャーの量と質の向上を図り、より身近な介護サービスを提供し、「医療・介護・福祉の複合体をめざしていく」方針だ。